

Global Express

SAMPLE vol. 4 2004 December, Palestine

グローバル・エクスプレス サンプル版第4号 2004年12月発行（DEAR News 112号付録）
このアクティビティはグローバル・エクスプレス・セミナー（2004年10月30日）で実施したものです

パレスチナを読み解く

アクティビティ1: 14歳の自爆?

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複写・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複写による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

記事1) 14歳、自爆テロ未遂 報酬2400円イスラエル軍検問所狙う

【エルサレム＝堀内隆】ヨルダン川西岸パレスチナ自治区のナブルス近郊にあるイスラエル軍検問所で24日午後、ナブルスに住む14歳の少年が体に巻いたベルト爆弾で自爆しようとして捕まった。イスラエル治安当局の調べに、「100シケル（約2400円）で請け負った。（殉教すれば）天国で72人の処女が待っているとされた」などと話しているという。イスラム教の聖典コーランは、天国での具体的な快樂を記している。

少年の行動について、パレスチナ解放機構（PLO）主流派ファタハの武装部門タンジームが声明を出した。ハマスの精神的指導者ヤシン師が22日に殺害されたことへの報復の一つとみられる。イスラエルでは少年が捕まってから爆弾を取り外すまでの一部始終がテレビで放映され、イスラエル首相府当局者は「過激派は子供を使ってテロを広げようとしている」と強く批判した。

少年は検問所に向かって走ってきたところを兵士に制止された。衣服の下に約8kgの爆弾を身につけているのが分かり、軍は周囲十数mを封鎖。ロボットを使って少年にはさみを渡し、自分で爆弾を取り外させた。

（朝日新聞 2004年3月25日夕刊）

記事2) 14歳、爆弾8kg

【エルサレム＝佐藤秀憲】イスラエル軍は24日、ヨルダン川西岸ナブルスの検問所で、自爆テロを試みようとした14歳の少年を拘束した。

少年は、大きめの上着を着て、検問所に近づいた。検問所のイスラエル軍が不審に思い、少年に離れた場所から制止を命じ、上着を脱ぐように指示したところ、8kgの爆弾を体に巻き付けていた。イスラエル兵の近くで自爆するつもりだったという。

イスラエル放送によると、14歳の「自爆テロ犯」は、これまでで最年少だという。

（読売新聞 2004年3月25日夕刊 *写真有り）

「体に爆発物を巻きつけた少年」の写真は以下で入手できます

→新聞記事「読売新聞」2004年3月26日朝刊

→ウェブサイト「Sponichi Annex」 http://www.sponichi.co.jp/society/ki_ji/2004/03/26/01.html

ワーク1:わたしの気持ち

「わたしの気持ち」ワークシート ©DEAR 開発教育協会

◆目的:

- ①新聞記事の内容を丁寧に読み、理解する。
- ②新聞記事についての自分の気持ちを確認する。
- ③自分の考えを他の人と比べ、いろいろな見方、感じ方があることを知る。

◆対象:

小学校中学年以上

◆備品:

新聞記事、「わたしの気持ち」ワークシート

◆所要時間:

20～30分

◆すすめ方:

- ①前頁の記事(または新聞記事のコピー)を配り、参加者に丁寧に読むように伝える。
- ②「わたしの気持ち」ワークシートを配り、このニュースを見て感じたこと、自分の気持ちにいちばん近いものを3つ選び、印を付けてもらう。

ここに書かれている以外に、自分の「気持ち」を表す言葉があれば、右下の空欄に書き入れてもよい。

③2～4人のグループをつくり、互いに自分がどれを選んだか、なぜ、それを選んだのかについて、話し合ってもらおう。

④参加者のうち数人(少ない場合は全員)に、他の人と話してみて気づいたこと、驚いたこと、感じたことなどを発表してもらおう。

おどろいた	おもしろい	かわいそう	くだらない
腹が立つ	わけがわからない	仕方がない	心配だ
自分には関係ない	わくわくする	興味がない	悲しい
こわい	くやしい	うれしい	

ワーク2:さらに記事を読み解く

◆目的: ①メディアが伝える情報を鵜呑みにせず、批判的に読み解く力を身につける。

②さまざまなルートから情報を入手することの大切さを知る。

◆対象: 中学生以上

◆備品: 新聞記事

◆所要時間: 15～30分

◆すすめ方:

- ①前頁の記事(または新聞記事のコピー)を配り、書き手や編集者の意見が書かれている客観的ではない部分に線を引く。
- ②2～4人のグループをつくり、どこに線を引いたのか、その理由について意見交換する。

◆補足説明:

- ・ 1シケルでアイスクリーム1個が買えます。
- ・ 写真はイスラエル側から撮ったもので、記事もイスラエル側が書いたものです。
- ・ 「もし、パレスチナ側から記事を書いたら…」ということを想像することもできます。日本で得られる情報には、偏りがあることに気づくことが必要です。
- ・ この少年は実際は16歳でしたが、通常の子どもより少し成長が遅いためいじめられており、それを見返すためにやったという情報もあります。この事件の数日前に、10歳の子どもが爆弾を運んでいたというニュースもあり、その流れでの記事だと思われます。
- ・ 子どもの保護の観点から名前や顔写真などは公表されないのは日本もイスラエルも同じですが、この少年は顔がはっきりと写っています。
- ・ (特活)パレスチナ子どものキャンペーン(<http://www32.ocn.ne.jp/~ccp/>)では、この記事によって未成年である子どもが見せしめにされ、政治的に利用されていると懸念を示しています。
- ・ 一部始終がテレビ撮影され、映されていることから、「故意に作られた事件」という説も出ています。

アクティビティ2: なぜ人は戦うのか?

このアクティビティは、
『Global Express Edition2
Central Africa
the crisis in the Great Lakes region』
(マンチェスターDEP発/1997年)で紹介
されているものを DEAR で翻訳・編集・
アレンジしたものです。

- ◆目的: ①「戦い」の背景を想像する。
②「戦い」には様々な理由や背景があることを知ること。
③「戦い」についての自分の考えをまとめ、他の人と話し合うこと。

◆対象: 中学生以上

◆備品: ワークシート

◆所要時間: 45分~90分

◆すすめ方:

- ①参加者に「なぜ人は戦うのか?」という問いかけをします。
(応用:「なぜあなたは戦うのか?」という問いに変えると自分のこととして考えやすい場合もあります)
- ②参加者は以下の選択肢の中から1~3つまでその理由だと思うものを選びます。
- ③ほかの理由を考えてみてもいいでしょう。例えば、「復讐のため」「お金のため」「アドベンチャー(冒険)として」「強さを誇示するため」などです。
- ④参加者が選んだ選択肢について、それぞれ具体例を挙げてみましょう。その例は、物語や映画、歴史の授業、ニュース、学校や地域でのできごとの中から探してみましょう。
- ⑤それぞれの事例について「どんな影響があるのか」「戦う以外の方法はないのか」を話し合ってみましょう。

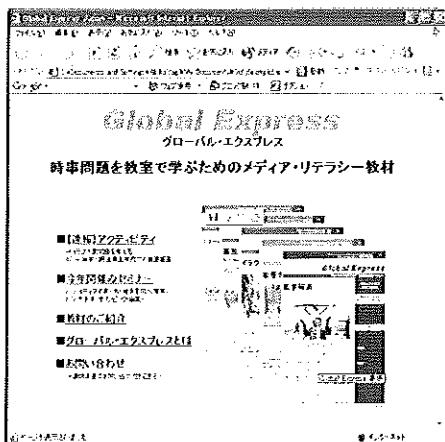
どんな「戦う理由」があったとしても、「戦い」は、人々が傷ついたり、モノが壊れたりといった多くの有害な影響をもたらします。そのほかには、どのような影響があるでしょうか?

「戦わない」あり方(非戦・不戦)をととても強く信じ、望む人もたくさんいます。

もめごとや課題を解決するために、「戦うこと」以外には、どのような取り組みがあるでしょうか。

1. 自分自身や家族、友だちなど、大切な人やものを攻撃から守るために戦います。	2. 自分らしく生きるために、また、自由や正義を得るために戦います。	3. 他の人の持っているお金や土地、資源などを手に入れるために戦います。
4. 自分が信じ、大切にしている信仰や神様、政治的信念などを守るために戦います。	5. 自分とは肌の色が違う人や、宗教や習慣が違う人を、自分たちより、劣っている人と教えられてきたために戦います。	6. 戦うことは当然の義務だと教えられてきたために、戦います。
7. 虚栄心、自己顕示欲、強さを誇示するために戦います。	8. 自分の大事な人を殺されたり、傷つけられたりし、その復讐のために戦います。	

Global Express ニュース



■レポート、感想をお寄せください

<http://www.globalexpress.jp/>

ウェブサイトからの教材ダウンロードも、とても多くの方にご利用いただいています。タスクチームでは、教材をご覧になった感想や、レポートを募集しています。

「こう使った」「ここが使いにくかった」「こんな風に応用させた」等々、どんなことでも結構です。

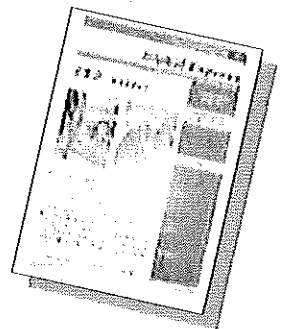
実践報告をウェブサイトの「実践レポート」コーナーに掲載することもできますので、ご希望の方は下記 DEAR 事務局(担当:中村、西)までご連絡ください。

■グローバル・エクスプレス日本版 第1号～5号 好評領布中！

教育の現場で活用できるアクティビティが詰まったグローバル・エクスプレス。ぜひセットでお求めください。

セット:会員価格 3,360 円(税抜 3,200 円)、一般販売価格 4,410 円(税抜 4,200 円)

- 第1号 ニュースに耳を傾ける(基本編)
- 第2号 攻撃を超えて(9.11 同時多発テロとイスラム)
- 第3号 難民(難民、日本における難民政策)
- 第4号 イラク(イラク問題、紛争の解決)
- 第5号 戦争報道(イラク戦争と報道)



→ 「グローバル・エクスプレス サンプル版」について

- ・グローバル・エクスプレス・タスクチームが時事問題をテーマにした教材を速報アクティビティとして提案します。
- ・2004年度は「DEAR ニュース」の付録として年5回の発行を目指します(6月、8月、10月、12月、2月)。
- ・このサンプル版は、一定期間経過後、グローバル・エクスプレスのホームページ(www.globalexpress.jp)に掲載されます。
- ・速報アクティビティへのご意見・ご提案・実践報告は大歓迎です。
- ・今年度、グローバル・エクスプレス・タスクチームには、ほとんど活動予算がありません。ご寄付も歓迎します。
(ご寄付は、セミナー開催費用、冊子印刷費用、HP維持費、資料購入費などに利用いたします)

→ この教材のご利用について

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複写・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複写による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41 富坂キリスト教センター2号館3階

Tel: 03-5844-3630 Fax: 03-3818-5940

E-mail: main@dear.or.jp URL: <http://www.dear.or.jp>

